



事務事業の市民点検2020

中間報告

2020 年 12 月
市原市

目次

1 実施概要について	1
(1) 目 的	1
(2) 点検の基本的な考え方	1
(3) 全体スケジュール	1
(4) 点検対象とする事務事業の選定	2
(5) 事前研修会	3
(6) 点検方法	3
2 実施結果について	4
(1) 点検結果	4
(2) 点検従事者数の実績	4
3 中間報告について	5
(1) 中間報告	5
(2) 最終報告	6
4 アンケート結果について	7
(1) 市民点検員に関するアンケート	7
(2) コーディネーターに関するアンケート	9
(3) 説明員（市の担当課職員）に関するアンケート	10
(4) OB・OG 点検員による過去との比較について	13
(5) OB・OG 点検員の変化について	14
(6) 自由記載欄について	15
5 事務事業一覧	19
(1) 点検結果が「ちょっと待った！（廃止・凍結）」、 反映の方向性が「実行計画・次年度予算」となったもの（2 事業）	19
(2) 点検結果が「もう一歩！（要改善）」、 反映の方向性が「即時反映」となったもの（5 事業）	20
(3) 点検結果が「もう一歩！（要改善）」、 反映の方向性が「実行計画・次年度予算」となったもの（8 事業）	22
(4) 点検結果が「いいね！（継続）」となったもの（1 事業）	25

1 実施概要について

(1) 目的

ア 持続的な改革・改善による行政経営

計画・予算・改革が一体となったトータルシステムにおいて、統合的解決によるビルド&スクラップを推進するため、一連の流れの中で、職員点検（施策単位の事務事業点検）と事務事業の市民点検を実施し、持続的な改革・改善をもっと前に進めます。

イ 対話による改革・改善の推進

(ア) 職員の意識改革から組織文化の変革

点検での気づき、組織内対話、組織間対話を通じて、事務事業の原点に立ち返り、組織目標を共有化して、自律的な改革・改善を行えるよう組織文化の変革を促します。

(イ) 市民参画の更なる推進

点検を通じて更なる市民参画を図り、市民本位の行政経営を推進します。

(2) 点検の基本的な考え方

市が行う事務事業は、内容が目的達成の最適な手段となっているか、常に原点に立ち返り不断の見直しを行い、主体的な改革につなげることが必要であることから、市民との対話により点検を行いました。

点検の結果は、成果が目に見えるよう、実行計画、次年度予算、行財政改革アクションプランの見直し等に反映させます。

なお、点検の結果は、拘束力を持つものではありません。しかし、外部評価及び客観的評価として尊重し、説明責任を果たすため、点検結果及び反映結果は（反映できない場合は理由も付して）全て公開します。

(3) 全体スケジュール

5月～6月	・職員点検及び市民点検の実施について検討
7月	・行政改革推進本部、事務改善委員会の開催 ・事業シートの作成に係る研修会の実施（研修会後作成開始） ・職員点検の実施（7/27～8/6）→市民点検対象事業の選定
8月	・行政改革推進本部、行政改革推進委員会の開催 ・市民へ募集案内の発送
9月	・事業シートの公開（全522事業） ・市民点検員の決定、市民点検員研修会の実施
10月	・論点整理研修の実施 ・市民点検実施（10月3日、4日）
11月	・中間報告の取りまとめ
12月	・行政改革推進委員会へ報告 → 公表（ウェブサイト等）
1月	・最終報告の取りまとめ
2月～3月	・行政改革推進本部、行政改革推進委員会へ報告 → 公表（ウェブサイト等）

(4) 点検対象とする事務事業の選定

昨年度までの市民点検では、各部門からの提案方式で対象候補となる事務事業を提案した後、市原市行政改革推進委員会に諮り、選定してきました。

今年度は、総合計画を着実に進めるため、自分の仕事だけでなく、全庁の仕事を自分事化して考え、総合計画の施策に紐づく事務事業について職員点検を行いました。

その後、職員点検で「検討」と判定された 36 事業の中から、16 事業を市民点検の対象候補として選定し、市原市行政改革推進委員会に諮った後、決定しました。

詳細は、以下のとおりです。

ア 職員点検の実施

(7) 点検事業数

総合計画の 44 施策 全 773 事業（再掲除く）

このうち、インフラ等のハード整備事業、義務的事務事業を除く 504 事業を点検

(4) 点検方法

関係性のある施策を組み合わせ、事務事業数が概ね均等になるよう、504 事業を 18 組に分けました。

庁内職員で組織した事務改善委員会の委員を 18 組に分け、次長職の職員をコーディネーター、課長職の職員を点検員とし、対象事業の事業担当課職員が説明員となって、「実施」「検討」「廃止」の 3 区分で判定を行いました。

(5) 判定結果及び反映先

【判定結果】

実施：464 事業

検討：36 事業

廃止：4 事業

【反映先】

①市民点検の対象：16

②関係部協議：14

③実行計画・予算での検討：6

イ 市民点検の事業選定

(7) 選定事業数

職員点検で「検討」と判定された 36 事業の中から 16 事業

(4) 選定理由

① 職員点検で「市民点検の対象」と振り分けられた 3 事業

② サポート員（企画部、総務部、財政部の職員）が、事業のやり方等について市民の意見を聞いた方が良いと考える 13 事業

(5) 事前研修会

ア 事業シートの作成に係る研修会

日 付：令和2年7月15日（水）

対 象：事業シートの作成を担当する職員（係長、担当者）

出席者：81名

イ 市民点検員研修会

日 付：令和2年9月13日（日）

対 象：市民点検員（AM:OB・OG点検員、PM:新規市民点検員）

出席者：56名（個別説明も含む）

ウ 論点整理研修会

日 付：令和2年10月1日（木）

対 象：点検対象課の職員（課長、係長、担当者）

出席者：30名

(6) 点検方法

市民点検の参加者は、コーディネーター1名、市民点検員7～8名、説明員（市の担当課職員）2～3名がグループとなり、グループごとに実施しました。

1事業当たりの点検方法と判定については、以下のとおりです。

事業説明	役割：説明員（市の担当課職員）	10 分		
	説明員が、市民点検用説明シート及び事業シートに基づき、事務事業の要点や補足を簡潔に説明しました。			
対話 質疑応答	役割：コーディネーター・各市民点検員	50 分		
	コーディネーターが、対話が促進されるよう点検を進行しました。 市民点検員は、事務事業の内容や実績等について、質疑を行い、事業の在り方、実施方法等について対話を行いました。			
判定	役割：コーディネーター・各市民点検員	10 分		
	対話に基づき、判定シートを用いて結論を出し、結果及び内訳を公表しました。 <table border="1"><tr><td>判定区分</td></tr><tr><td>ちょっと待った！（廃止・凍結）</td></tr><tr><td>もう一歩！（要改善）</td></tr><tr><td>いいね！（継続）</td></tr></table> 判定以外にも、各市民点検員の御意見は、判定シートへ記入し、その内容を担当課へ回付しました。		判定区分	ちょっと待った！（廃止・凍結）
判定区分				
ちょっと待った！（廃止・凍結）				
もう一歩！（要改善）				
いいね！（継続）				
※時間は目安であり、点検内容によって増減あり		計 70 分		

※市民点検員には、半日単位の参加で1,000円の図書カードを進呈（事前研修参加も含む）

2 実施結果について

(1) 点検結果

実施日	事業数	ちょっと待った！ (廃止・凍結)	もう一步！ (要改善)	いいね！ (継続)
10月3日(土)	8	1 (12.5%)	7 (87.5%)	0 (0%)
10月4日(日)	8	1 (12.5%)	6 (75%)	1 (12.5%)
計	16	2 (12.5%)	13 (81.3%)	1 (6.2%)

※各事務事業の詳細を記載した事務事業一覧（P19 以降参照）には、各判定の内訳と、コーディネーターの判定を参考に掲載しています。あわせて、判定に至った経緯を明らかにするため、「判定のポイントとなった理由」をまとめています。

(2) 点検従事者数の実績

項目		1 無作為抽出 点検員		2 OB・OG点検員 ^{※2}		3 高校生 ^{※3}		計	
案内状発送		1,600 ^{※1}		209		8		1,817	
応募者(応募率)		25 (1.6%)		41 (19.6%)		8		74	
研修 (参加率=研修/応募者)		20 (80.0%)		30 (73.2%)		6 (75%)		56 (75.7%)	
市民点検 (参加率=点検/応募者)	上段 10/3	10	22 (88.0%)	21	38 (92.7%)	4	8 (100%)	35	68 (91.9%)
	下段 10/4	12		17		4		33	

■市民点検参加者 内訳

性別	人数	割合
男性	43	63.2%
女性	25	36.8%
合計	68	100.0%

年代	人数	割合
10代	11	16.2%
20代	7	10.3%
30代	11	16.2%
40代	10	14.7%
50代	7	10.3%
60代	5	7.3%
70代	15	22.1%
80代	2	2.9%
合計	68	100.0%

■市民点検 傍聴者数

62	・10/3(土) 27人 ・10/4(日) 35人
----	------------------------------

※1 18歳以上の市民を無作為に抽出して案内状を発送

※2 OB・OG点検員＝過去の点検に参加したことのある市民点検員

※3 千葉県立京葉高等学校、東海大学付属市原望洋高等学校、市原中央高等学校
無作為抽出の中からも、高校生1名が参加

3 中間報告について

事務事業の見直しに当たっては、調整等も必要なため、本年12月に「中間報告（本書）」を、令和3年3月に「最終報告」を取りまとめ、2段階に分けて公表します。

(1) 中間報告

中間報告では、各事務事業について、「反映の方向性」と「担当職員の得られた気付き」を報告します。また、今回の市民点検の実施を通じて、新たな課題等も見えてきたため、最終報告に向けてまとめました。

ア 「反映の方向性」

「反映の方向性」は、点検結果が「ちょっと待った！（廃止・凍結）」「もう一步！（要改善）」となった15の事務事業を対象に、以下の3区分から選択しました。

点検結果	反映の方向性		
	即時反映	実行計画・次年度予算	行財政改革アクションプランⅡ
ちょっと待った！（廃止・凍結）	0	2	0
もう一步！（要改善）	5	8	0
計	5	10	0

(ア) 即時反映する

点検結果を受け、予算には影響せず、今年度中又は次年度中にすぐに改善して取り組むもの。

（例）ニーズ把握のためのアンケート調査を実施する。

事業周知方法を見直し、紙媒体からSNSを活用した広報等に改善する。

(イ) 実行計画・次年度予算に反映する

事務事業を見直し、次期実行計画に位置付けるとともに、次年度当初予算に反映させるもの。

（例）次年度から廃止する。事業費を減額（増額）して実施する。

(ウ) 行財政改革アクションプランⅡに反映する

行財政改革アクションプランⅡに位置付けるもの。

（例）事務事業の主体や実施方法を見直しに相手側との協議が必要で、複数年かけて反映させていく。

イ 「担当職員の得られた気付き」

主体的な改革改善につなげていくための契機として、“気付き”を得ることが大切であることから、点検を行った全ての事務事業を対象に、「担当職員の得られた気付き」を取りまとめました。

※詳細は、事務事業一覧（P19以降参照）のとおり

ウ「新たに見えてきた課題等」

(7) 庁内横断的な課題の統合的解決

複数の部門にまたがる課題を統合的に解決していくため、計画・予算・改革が一体となったトータルシステムの中に点検を組み込んで実施しました。具体的には、事務事業の集合体である総合計画の施策を単位とし、施策ごとに紐づく事務事業について職員点検を実施しました。その結果から、市民点検で対象とする事務事業を選定しました。

この取組により、職員が自分の仕事だけでなく、他の部署の仕事も見ることで、いくつかの事務事業について、相乗効果が発揮されるような事業間の統合の道筋が見えてきました。

しかしながら、事業成果の捉え方が十分でないために、ゴールが見えなくなっている事業も見受けられました。

今後は、成果の指標をより明確にしていく必要性が課題として見えてきました。

(イ) 自律的な改革・改善

庁内の部門間での対話を促進するため、組織内対話を進化させ、「組織間対話」に取り組んできました。職員が自分以外の部署の仕事も自分事として捉えられるよう、職員点検を実施したことで、庁内において対話が徐々に浸透しつつあります。

しかしながら、市民点検で市民点検員からの質問に対し、自分の部署のデータは説明できるが、関連する他部署のデータは把握しきれておらず、説明できない場面も見受けられました。

今後は、複雑多様化する市民ニーズに対応するため、事業シートを更新し、職員が全庁を意識しながら仕事をすることで、更に自律的な改革・改善が進められるような取組が課題となります。

(ウ) 市民参画の幅の広がり

今回の点検では、市民視点を活かした論点の掘り起こしを進めるため、事前の研修において、新規市民点検員は「不安解消と点検制度の理解」を目的とし、OB・OG点検員は「更なる論点出しと論点の深掘り」に重点を置き、それぞれでメニューを変えて実施しました。その結果、点検後のアンケートでは、職員の「気付き」や「納得性」の数値が向上する結果となりました。

また、OB・OG点検員を対象に、市民点検に参加するようになってから行政との関わり方に変化があったかというアンケートでは、8割近くの方に変化があったという結果となりました。

今後は、市民点検への参加に限らず、市民参画の幅を広げ、OB・OG点検員の活躍の場を増やす取組が課題として挙げられます。

(2) 最終報告

今後、各担当課においては、中間報告の「反映の方向性」「担当職員の得られた気付き」に基づき、庁内及び庁外調整を経て、具体的な見直し方法等を最終報告としてまとめます。また、新たに見えてきた課題等については、次年度の実施に向けて最終報告までに取りまとめます。

なお、最終報告は、令和3年3月に公表します。

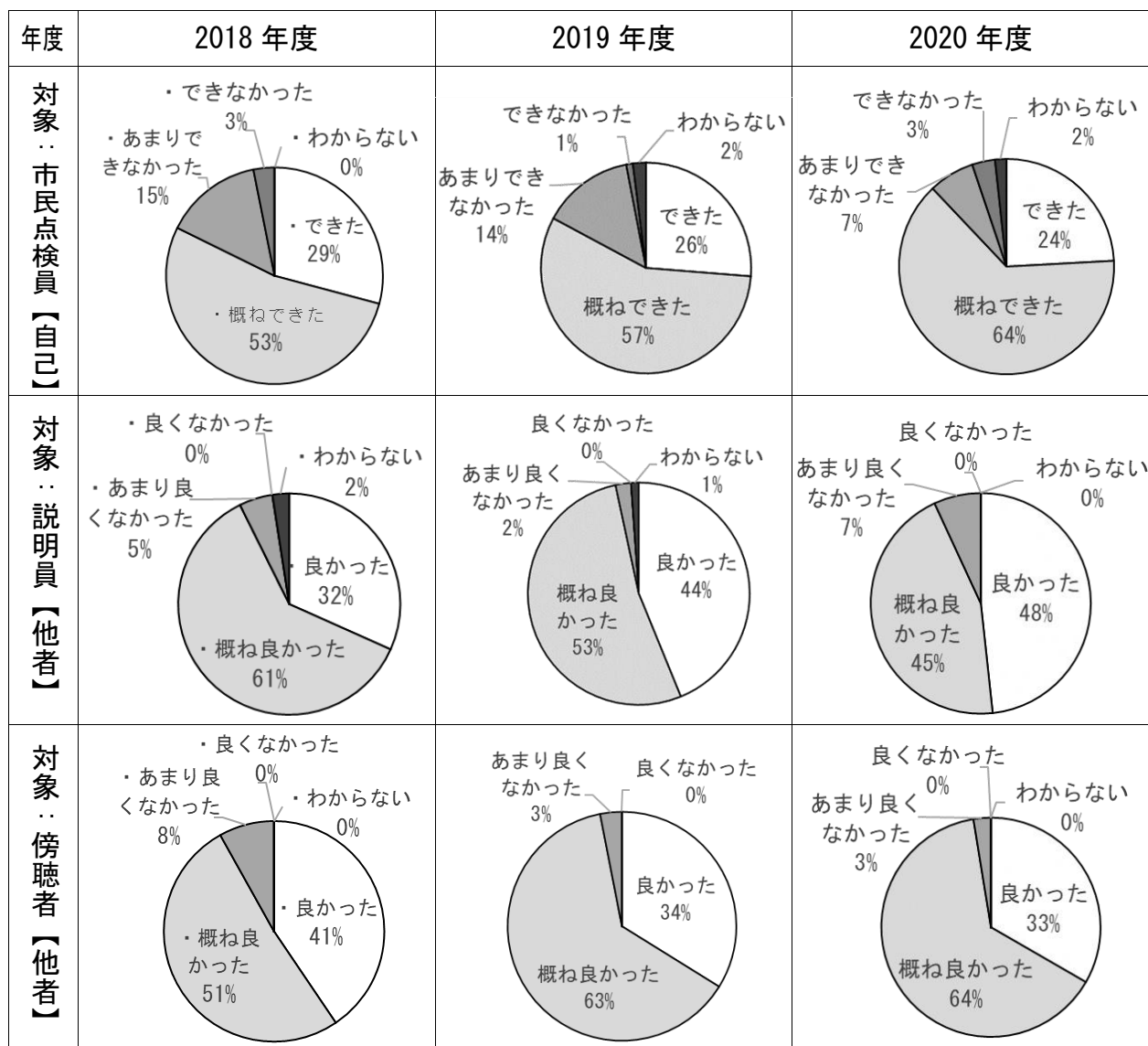
4 アンケート結果について

(1) 市民点検員に関するアンケート

① 市民点検員の質問について

自己評価（上段）・・・思ったとおりの質問ができたか

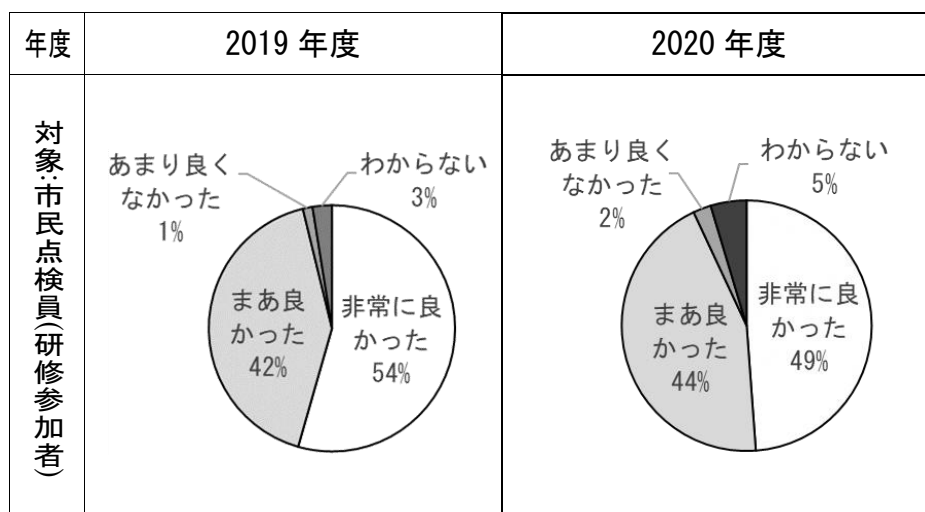
他者評価（中、下段）・・・質問はどうだったか



上段の自己評価において、今回の点検では、「できた」「概ねできた」を合わせると 88%（上段右グラフ）となり、前回（上段中グラフ）、前々回（上段左グラフ）以上に、市民点検員から思ったとおりの質問ができたという回答が多くありました。

他者評価では、説明員（市の担当課職員）からは、「良かった」「概ね良かった」を合わせると 93%（中段右グラフ）であり、前回（中段中グラフ）、前々回（中段左グラフ）と同様に高い評価となりました。また、傍聴者からも「良かった」「概ね良かった」を合わせると 97%（下段右グラフ）となり、前回（下段中グラフ）、前々回（下段左グラフ）と同様に高い評価となりました。

② 事前研修に参加してどうだったか



点検前に実施した市民点検員研修についての設問では（右グラフ）、「非常に良かった（有意義だった）」が 49%、「まあ良かった（まあ有意義だった）」が 44%であり、前回同様、非常に高い評価となりました。

今回の研修から、より効果的・効率的に市民点検を実施するため、新規市民点検員は「不安解消と点検制度の理解」を目的とし、OB・OG点検員は「更なる論点出しと論点の深掘り」に重点を置き、それぞれでメニューを変えて実施しました。

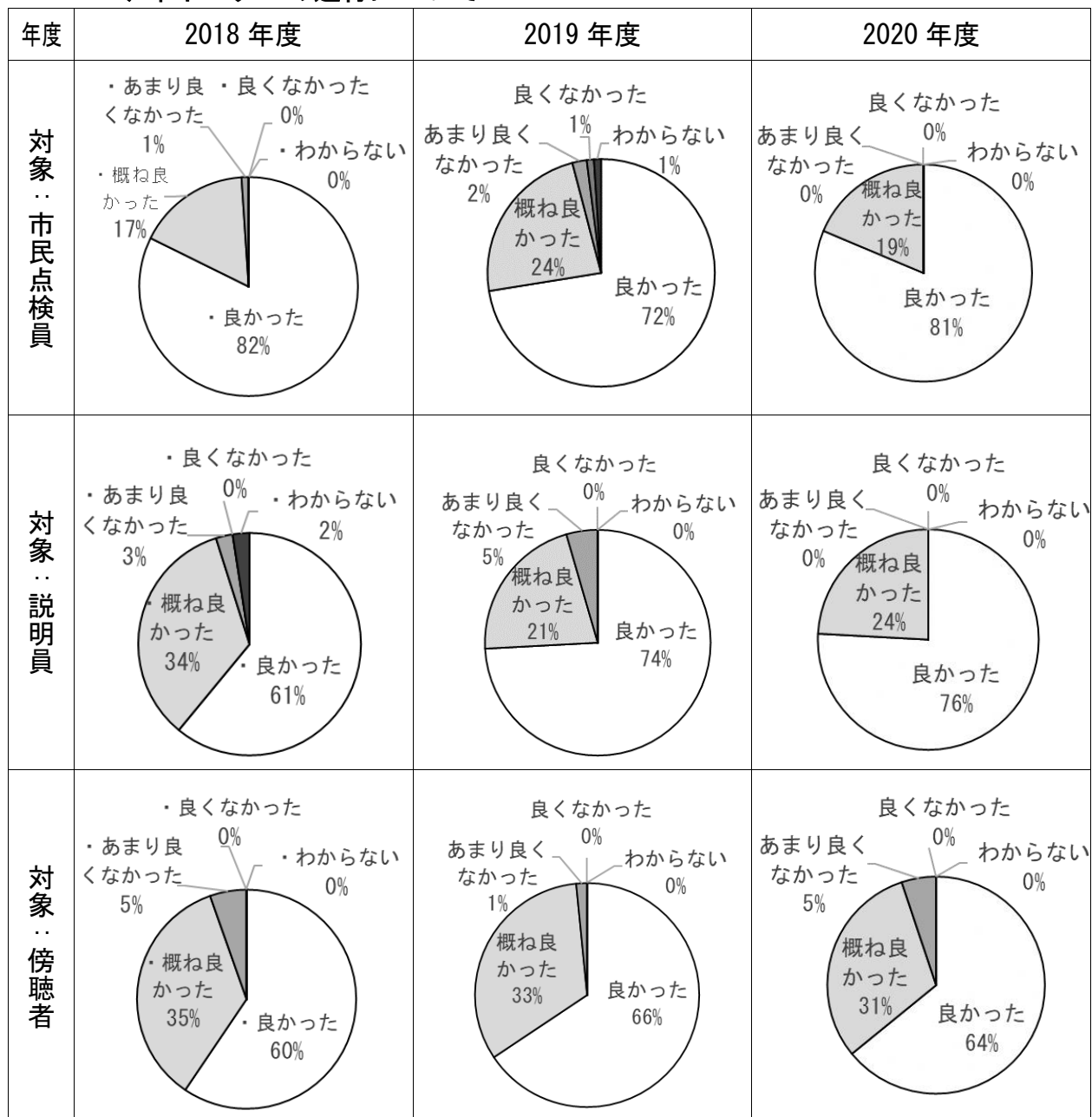
アンケートからは、概ね研修の効果があったと言える意見が多くありました。

主な意見は、以下のとおりです。

- ・ 前もってどんな事をやるのかわかったので、事前準備ができた。（外 7 件）
- ・ 流れを理解できたので、不安が改善された。（外 3 件）
- ・ 研修で市民点検がどれほど意義のあるものか理解することができた。（外 3 件）
- ・ 点検の流れや感覚を思い出すことができた。（OB・OG 点検員）（外 2 件）
- ・ 経験者と初心者では、研修時に確認しておくべきポイントも異なると思うので、そこで分けたのは良いと思う。（OB・OG 点検員）（外 2 件）
- ・ 前回分をサンプルにして進め方の再確認、共有化できたのは良い。参考になった。（OB・OG 点検員）（外 2 件）

(2) コーディネーターに関するアンケート

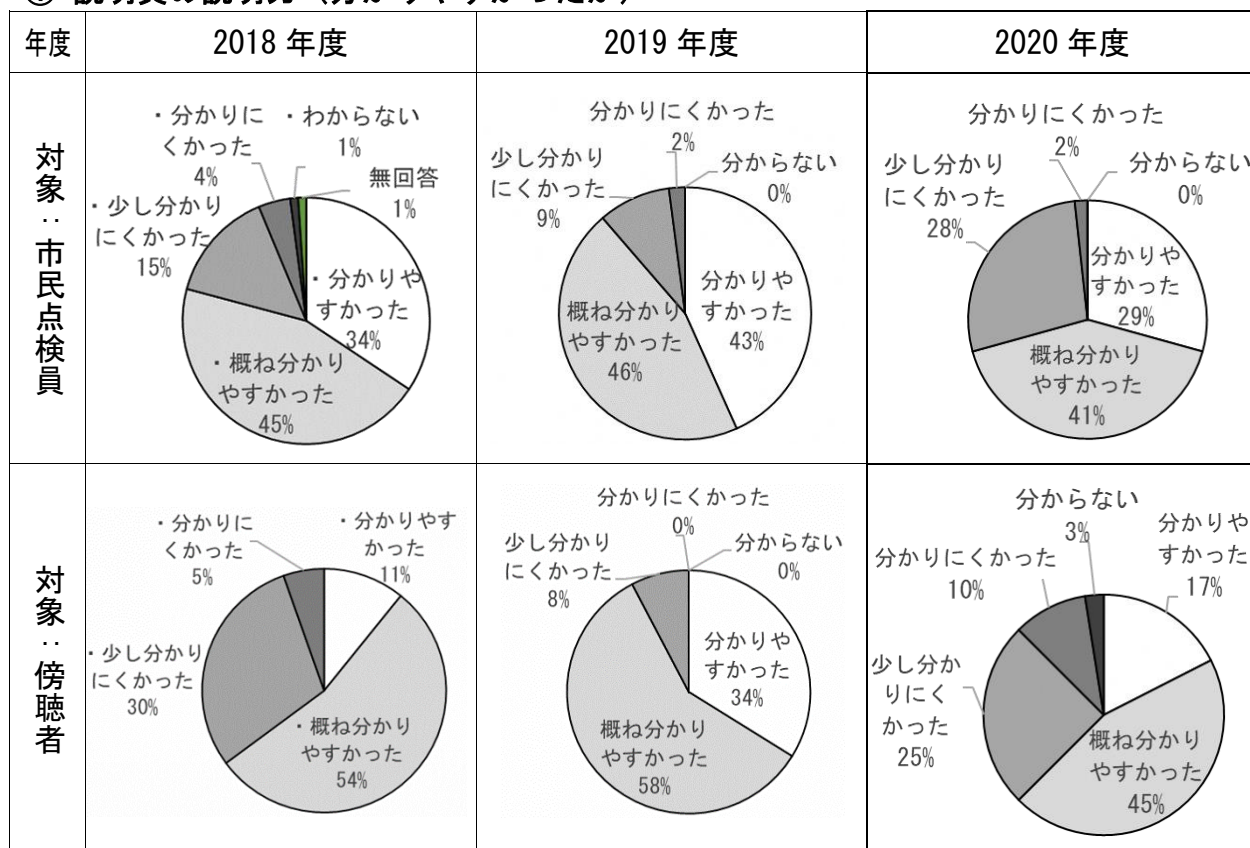
コーディネーターの進行について



構想日本から派遣されたコーディネーターの進行について、「良かった」と回答した市民点検員は81%（上段右グラフ）、説明員は76%（中段右グラフ）、傍聴者は64%（下段右グラフ）でした。前回（真ん中縦列）、前々回（左縦列）と同様に非常に高い評価となり、コーディネート力の高さが分かる結果となりました。

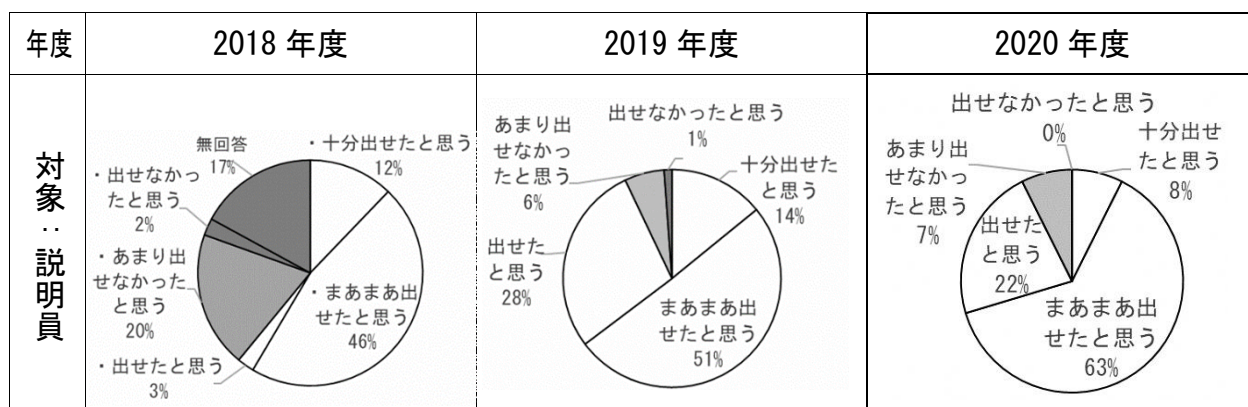
(3) 説明員(市の担当課職員)に関するアンケート

① 説明員の説明力(分かりやすかったか)



説明員の説明力について、「分かりやすかった」と回答した市民点検員が29%（上段右グラフ）、傍聴者は17%（下段右グラフ）であり、前回（真ん中縦列）に比べて低下する結果となりました。

② 説明員研修の成果が出せたか

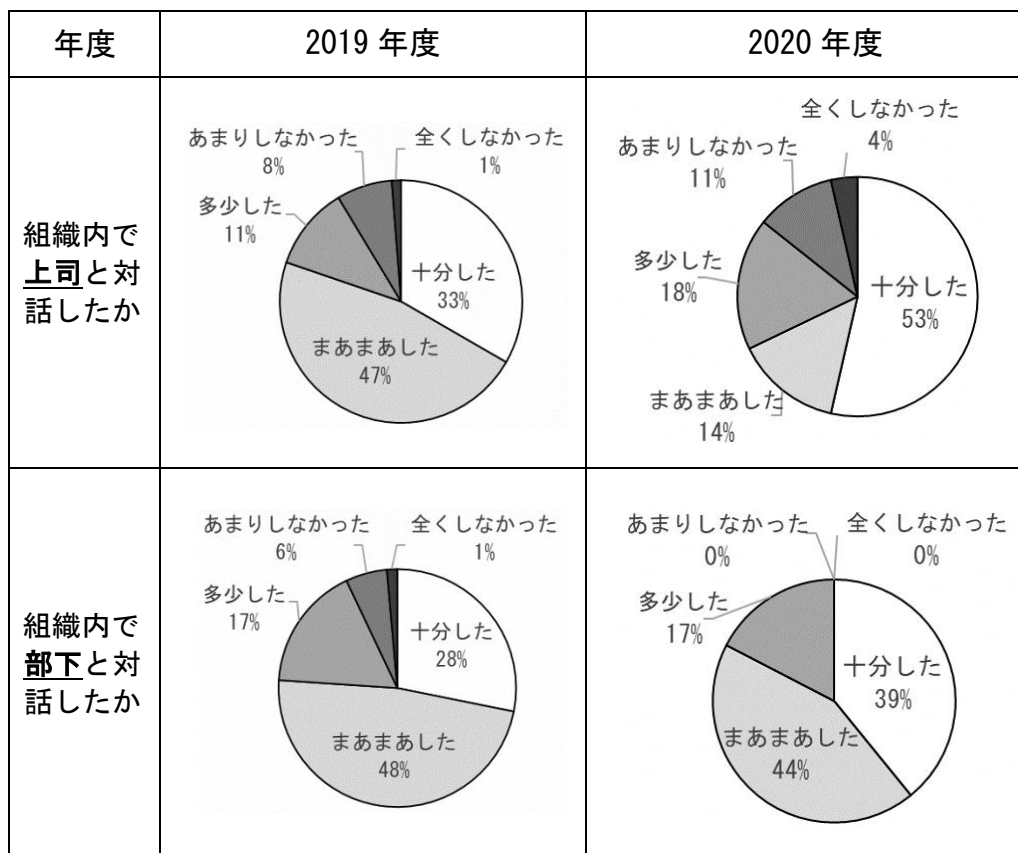


研修の成果については、「十分出せたと思う」「まあまあ出せたと思う」「出せたと思う」を合わせると93%（右グラフ）となり、前回（中グラフ）と同様に非常に高い結果となりました。

また、事前研修の必要性を問う別の設問では、約9割の説明員が「必要性をとて感じ」と回答しました。

③ 説明員に対して、組織内での対話についての設問

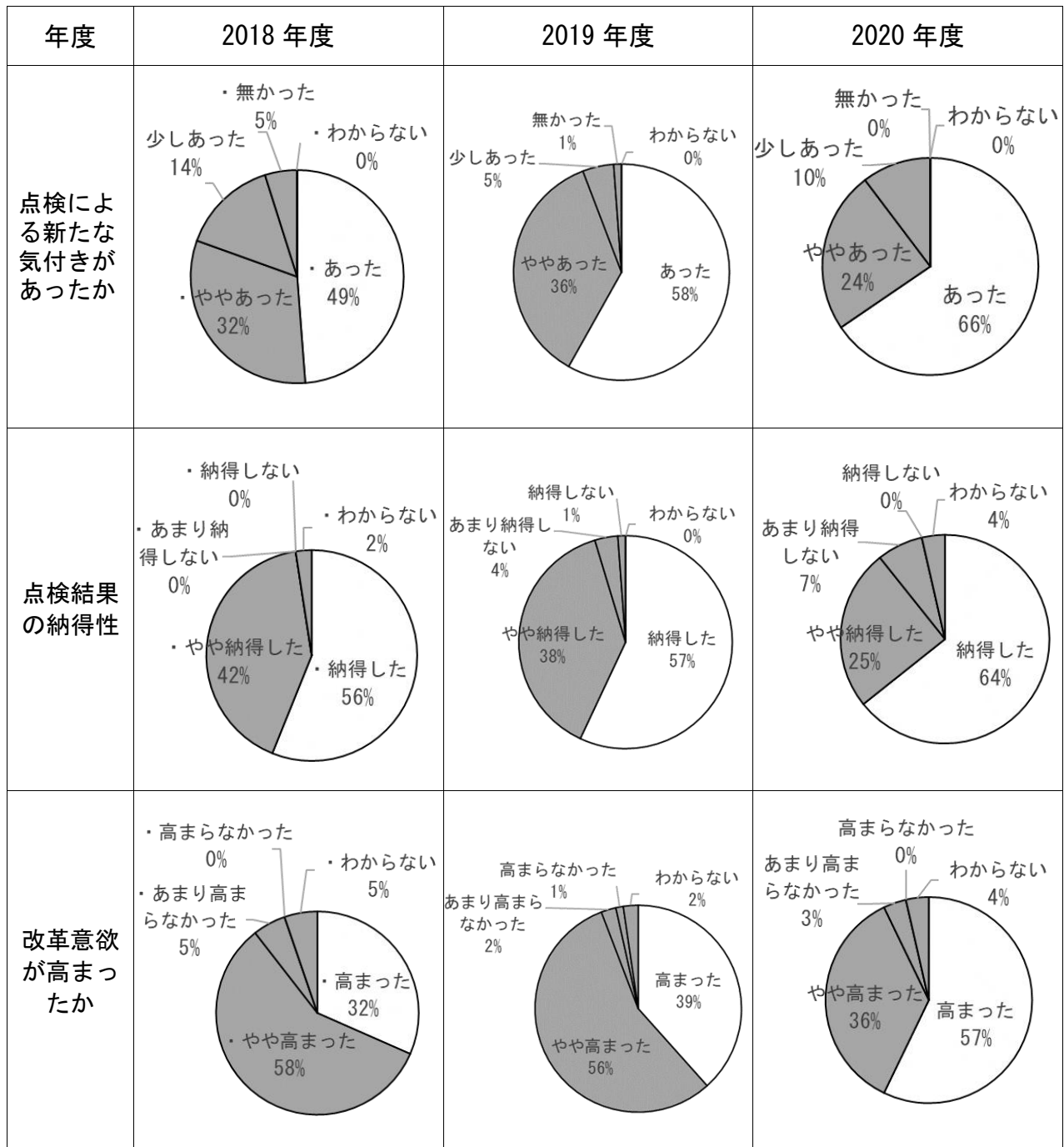
時点：点検終了時



対象事業について、組織内で対話をしたかどうかの設問では、「上司と十分に対話した」と回答した説明員が 53%（上段右グラフ）、「部下と十分に対話した」と回答した説明員が 39%（下段右グラフ）でした。前回（左縦列グラフ）と比較して、組織内での対話が促進されたことが伺える結果となりました。

④ 説明員に対して、気づき等に関する設問

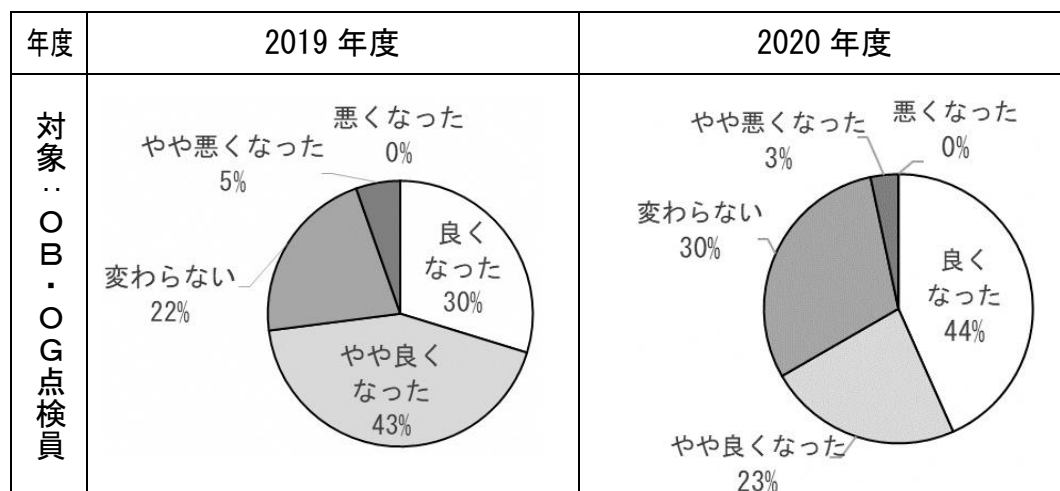
時点：点検終了時



「点検による新たな気づきがあったか」「点検結果の納得性」「改革意欲が高まったか」という3つ設問（右縦列グラフ）では、前回（中縦列グラフ）、前々回（左縦列グラフ）と比較して、点検の回を重ねるごとに、徐々に数値が向上しました。これにより、市民点検が行政改革の手法として、また、意識改革の手法として有効であるということが裏付けられる結果となりました。

(4) OB・OG 点検員による過去との比較について

過去に参加した点検と比べて、今回はどうだったか



過去に参加した点検と今回を比較する設問では、「良くなった」「やや良くなった」と回答したOB・OG点検員が合わせて67%（右グラフ）という結果となりました。

主な意見は、以下のとおりです。

◆良くなった点

- ・ コーディネーターのスムーズな進行が良かった。（外3件）
時間内に議論がうまくまとまり、発言の機会も概ね均等に配分する配慮が以前より向上したと感じた。
- ・ 去年も充実していたが、今回も充実していた。（外2件）
- ・ 今回の方が意見を言いやすかった。（外1件）
- ・ 高校生など、若い人の意見も良く出ていた。（外1件）
- ・ 毎年進歩していると感じる。
- ・ コロナ対策など、とても良いと思います。
- ・ 事業シート自体も少しくだけた気がします。

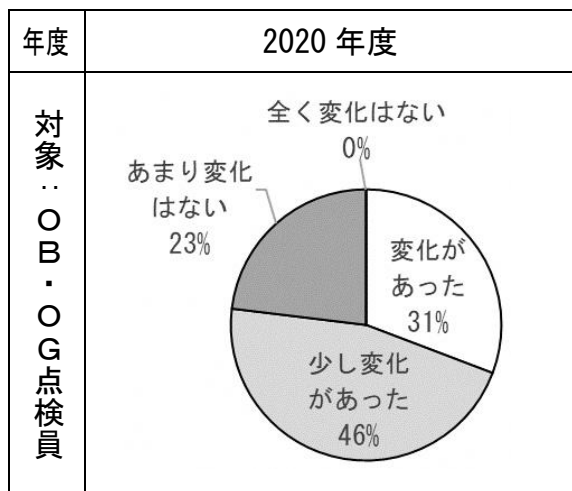
◆改善点

- ・ 関連事業の情報が欲しい。
- ・ 見当違いの発言が多かった。点検員を厳選すべき。また、人数が多いと思うので、半分で良い。

(5) OB・OG 点検員の変化について

市民点検に参加するようになって、行政との関わりに変化があったか

時点：OB・OG 点検員研修会



市民点検に参加するようになってから変化があったかどうかの設問では、「変化があった」「少し変化があった」と回答したOB・OG点検員が合わせて 77%という結果になりました。

具体的な変化の内容は、以下のとおりです。

- ・ ウェブサイトや広報など、市の発信する情報をチェックする機会が増えた。(外9件)
- ・ 行政が身近に感じられるようになった。(外2件)
- ・ 市原市の行政の重要項目は何か関心を持つようになりました。
- ・ もっと議会の状況を調査したい。議会だよりを読むようになった。
- ・ 行政の目的、職員の努力などにも関心を持つようになった
- ・ 以前点検に関わった事業を広報いちほらにて拝見して、市民の意見を取り入れてくれたんだと思い、住んでいるこの市が市民のために動いてくれるということを知ったので良かった。
- ・ マイナンバーカードを申請した。

(6) 自由記載欄について

ア 市民点検員の意見

自由記載欄に寄せられた主な意見は、以下のとおりです。

(ア) 点検内容等に関する意見

- ・ 説明員からは丁寧な回答をいただいたが、質問の回答がずれているかなと思うことが何回かあった。
- ・ 拳手もありですが、一人一人に聞いてもいいかと思いました。意見がなければ、なしで良いと思います。
- ・ 事業シートの内容だけでは、行っている活動についてわからない。当日の追加資料を見ないと分からなかったので、事前にもう少し詳しく分かったと良かったと思います。
- ・ 用語集が添付されているとはいえ、馴染みの薄い文字言葉が多く資料が分かりにくい。少しでも分かりやすい書類にして欲しい。
- ・ 事前に情報収集するために、ホームページの URL（QR コード）が案内されていると助かります。
- ・ アンケートなどをとっている議題には、その結果を明確に示せるような資料を配るべきだと思いました。
- ・ 事前に担当課に質問書を送って、当日回答してもらえたらよいと思った。

(イ) 事業選定に関する意見

- ・ テーマ選定（事業選定）を見直した方が良い。緊急性、重要性、将来性などから。
- ・ 本市の重点事業等に焦点を当てた、市民目線の点検はどうでしょうか、とりわけ本市の抱える課題解決に対する点検も良いのでは。
- ・ 対象とする事業の予算規模が小さいものが多く感じられる。国県の補助が入る自治事務についても、対象としてみてはどうか。廃止凍結にならないとしても、要改善はあり得る。効果も見込まれるのでは。

(ウ) 市民点検員に関する意見

- ・ 高校生の外、20 代、30 代の若い世代の方の意見を是非取り入れて欲しい。
- ・ OB・OG 点検員は、定年制を設けた方が良い（3 回か 4 回で）

(エ) 全般に関する意見

- ・ 今後もぜひ続けてください。（外 1 件）
- ・ また参加してみたいと思いました。（外 1 件）
- ・ 市民の声を恐れずに聞くことは大いに評価できる。

(オ) 市民点検員の「自分ごと」につながる意見

- ・ 自分達の税金が使われているのだから、日頃から少しは市の事業に興味を持ってみようと思う。(外7件)
- ・ 市のホームページ、広報いちはらをもっと見るようにする。(外6件)
- ・ 市のイベントに参加してみようと思った。(外5件)
- ・ 地域の活動に興味を持って、関わっていきたい。(外5件)
- ・ 市原のブランドや観光地を友人等にアピールしていこうと思う。(外4件)
- ・ 今後、ボランティアに参加してみようと思った。(外2件)
- ・ 市の事業を身近な人に広めたいと思います。(外1件)
- ・ 地域について考え、どうすれば活性化できるのか考えたい。
- ・ 地元の掲示板などを見るように心掛けたいと思いました。
- ・ 市原市の明るい未来を語り合える市民の輪を広げていく。市民の声をどのように市にあげていくか工夫していく。
- ・ 機会があれば「いちはら未来会議」等に参加してみたいと思いました。

イ 説明員の意見

自由記載欄に寄せられた主な意見は、以下のとおりです。

- ・ コーディネーターの進行が素晴らしく、勉強になった。
- ・ 各課が事業内容について市民アンケートをするように点検を活用することができれば、市民と共に考え、より良い事業の方向性を考えることができる取組だと思う。点検に対する職員の意識改革が必要だと感じた。
- ・ 点検員から事前に質問が受けられると良いかと思いました。
- ・ 前後の点検事業のつながりがあると、点検員の理解が深まり、より一層有意義な意見がいただけると思う。
- ・ 点検対象となる部署が偏っている。
- ・ 判定が3区分なのは無理がある。

ウ 傍聴者の意見

傍聴者からは、全体の進行や市民点検員に関する感想等に加え、今後のヒントとなるような意見をいただきました。主な意見は、以下のとおりです。

(ア) 点検内容等に関する意見

- コーディネーターの整理で課題認識が共有できたとは思いましたが、点検員の方もあらかじめ捉えられていると議論が深まったと感じます。説明員から正直に〇〇〇が課題と言ってしまってもいいかも。
- 説明資料をもう少し詳しくして欲しい。点検に必要な情報がもう少し添付されていると、点検の議論が深まると感じた。
- 職員が市民に対して事業の目的と手段、成果を自ら説明することが最大の意義だと感じています。職員にも、今回のコーディネーターのようなファシリテーター能力が求められるなと感じました。

(イ) 事業選定に関する意見

- 対象とする事業を出すことが難しくなっている。論点を絞り出すのに苦労した跡がうかがえました。
- 点検事業を選定する際に市民意見を取り入れてもよいかも。

(ウ) 市民点検員・説明員に関する意見

- 若い女性の意見や、高校生の柔軟な意見は特に素晴らしかった。
- 市民点検員の方の意識が高いと感じました。
- 市民が行政の事業を自分ごとと捉えるには最善の形だと思います。
- 同じ方が複数回、判定人になると、行政寄りの構成員になってしまう可能性があると感じました。

(エ) 会場に関する意見

- 別室視聴の際、コーディネーターが奥になっているので、音声が聞きづらい。ホワイトボードの文字が読めない。2画面使うなど、工夫があってもいいように思う（別室を十全に機能させるなら）。

エ 高校生の意見

高校生からの主な意見は、以下のとおりです。

- 他の自治体でも実施した方が良かったと思いました。（外 3 件）
- 機会があれば、また参加したいです。（外 2 件）
- このようなことをしていること自体、初めて知ったので驚きました。（外 1 件）
- 高校生には滅多にない社会参画の機会なので、高校生の参加はこれからも続けて欲しい。
- 高校生には難しい話もありましたが、何より貴重な経験であり、他の市民の方と話し、交流を深める機会にもなるので、この仕組みはもっと普及されるべきだと感じました。
- 初めて参加して、とても楽しくて様々なことを学ぶことができました。とてもためになりました。
- 想像していたより堅苦しくなくて、話しやすかったです。

5 事務事業一覧

(1) 点検結果が「ちょっと待った! (廃止・凍結)」、反映の方向性が「実行計画・次年度予算」となったもの (2事業)

No	事務 事業名	担当 課室	【点検結果】					【中間報告】		
			判定	一内訳一			参考	判定のポイント となった理由	反映の 方向性	担当職員の 得られた気付き
			ちょっと 待った！ (廃止・凍結)	6	もう一 歩！ (要改善)	いい ね！ (継続)	コーディネーター 判定			
1	観光農園 促進事業	農林業振 興課	ちょっと 待った！ (廃止・凍結)	6	3	0	ちょっと 待った！ (廃止・凍結)	市内農家の所得増、担い手の確保が本質的な目的だと思うので、観光農園だけでは季節が限定され、経営が難しい。農業部門だけではなく、観光などと連携して、体験、宿泊、販売などが行える複合施設ができればいいという意見がありました。 その他、体験をメインに差別化して、例えば、低価格でできる「〇〇狩り」といったメニューができるように、体験メニューに対して補助金を出す制度があってもよいのではといった意見もありました。 以上の理由から、判定は「ちょっと待った！（廃止・凍結）」となりました。	実行計 画・次年 度予算	目的（目指す姿）に対する事業（手法）の有効性や適正性について、改めて考えさせられる良い機会となりました。 この視点は、本事業に限らず、どの事業にも共通するため、他の事業も含め、今後の見直しや事務改善にいかしていきたいと思います。
			【事業目的】 「農業」を資源として、農村での観光客の受入れを通じて、農業者の所得向上と地域における交流人口の拡大を図ることを目的としています。							
			【事業内容】 観光農園を開設している又は開設を予定している農業者等のために、ビニールハウスや園場整備、機械・設備の導入など、整備に必要な経費の一部を支援するものです。							
2	ロビーコ ンサート 開催事業	ふるさと 文化課	ちょっと 待った！ (廃止・凍結)	5	3(市で) 0(民間 で)	0	ちょっと 待った！ (廃止・凍結)	音楽による文化振興については、市が直接実施するよりもノウハウを持っている民間が取り組んだ方が効果的ではないか。よって、事業主体は、市ではなく民間に任せてもよいのではないかという意見が多くありました。 また、市役所の分庁舎の影響もあり、観客数が減少しているため、会場を市役所のロビーにこだわらず、もっと集客が見込める大型ショッピングセンターなどで実施してもよいのではないかといった意見がありました。 以上の理由から、判定は「ちょっと待った！（廃止・凍結）」となりました。 その他、「もう一步！（要改善）」と判定した点検員からは、完全に民間に任せきりにするのではなく、市民が音楽に気軽に触れる機会を増やすという方向で連携して工夫していった欲しいという意見もありました。	実行計 画・次年 度予算	平日に実施するため、学生や働く世代の方々は、足を運ぶことのできる機会が少なく、ロビーコンサートの認知度が大変低いことがわかりました。 市役所を飛び出して、大型ショッピングセンターで開催したり、演奏する機会がない人に発表の場を提供したりなど、目から鱗の新鮮な意見をいただきました。
			【事業目的】 市民の皆様が生音楽にふれることができる機会を創出することで、音楽への興味や関心が向上し、音楽を通して心豊かな生活が送れることを目的としています。 また、出演者にとりましても音楽芸術活動の発表の場を設けることで、日々の成果を披露できる機会となり、その後の自主的な活動を促し、ひいては市民文化の振興を図ることを目指しています。							
			【事業内容】 市民が気軽に音楽に親しめる機会を創出するため、毎年数回市役所第2庁舎1階ロビーにて開催しています。							

(2) 点検結果が「もう一步! (要改善)」、反映の方向性が「即時反映」となったもの (5事業)

No	事務 事業名	担当 課室	【点検結果】					【中間報告】		
			判定	ちよつと 待った！ (廃止・凍 結)	もう一 歩！ (要改善)	いい ね！ (継続)	参考 コーデ ィネー ター 判定	判定のポイント となった理由	反映の 方向性	担当職員の 得られた気付き
3	総合計画 推進事業	総合計画 推進課	もう 一歩！ (要改善)	1	8	0	もう 一歩！ (要改善)	事業の目的、手段、成果が分かりにくいといった意見や、目的に対してどのような結果になれば成果と言えるのかなどがもう少し分かりやすく表現できると良いという意見がありました。 また、いちほら未来会議については、市と市民が市政について対話する場として、市民参加の意味では非常に良いという意見が多くありました。しかし、現状のやり方だと、ビルドの部分はあっても、スクラップにつなげていくのは難しいのでは。計画・予算・改革がスムーズに進むように、市民参加とトータルシステムが、ビルド&スクラップとうまく絡まり合う仕組みを考えていく必要があるのではないかと。せつかくの良い取組なので、有機的に機能させる方法を検討して欲しいといった意見がありました。 以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となりました。その他、いちほら未来会議と事務事業の市民点検は、どちらも無作為抽出で市民に参加をしてもらっているため、市民点検の0B・0G点検員が未来会議に参加したり、逆に未来会議の参加者が市民点検の点検員となったりなど、一体で考えられたら良いのではといった意見もありました。	即時 反映	・トータルシステムにおける市民点検といちはら未来会議、それぞれの目的・役割を整理したいと思います。また、現在も市民点検の0Bから未来会議の委員として参加していただいている方もいることから、今後の委員交流についても検討したいと思います。 ・市の将来に向けた取組（ビルド）を共有した上で、改善改革に向けた取組（スクラップ）について検討するなど、未来会議と市民点検を線で結んだ事業展開にしても良いと感じました。
4	児童遊園 事業	子ども福祉課	もう 一歩！ (要改善)	1	7	0	もう 一歩！ (要改善)	児童遊園と都市公園の違いは、市民からすると分かりにくい。都市公園を管理している公園緑地課と連携し、全ての公園を一体的に管理して欲しい。その上で市全体として、公園を俯瞰的に見直して欲しいという意見がありました。 また、老朽化が原因で事故が発生する前に、必要なものは残しつつ、廃止すべき児童遊園は廃止した方が良いとの意見が多く寄せられました。今後少子化が進むという予測がある以上、少子化の蓋然性は高いと考えられるので、データに基づいて公園を廃止していくため、長期的なロードマップを作成することも重要ではという意見もありました。 以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となりました。	即時 反映	利用が乏しく、管理が困難になりつつある児童遊園については、廃止していく方向であることに賛同を得られたものと考えます。 また、近くの大きな公園と比べ小規模であっても、かえって混雑なく利用できるメリットがあるとの利用者の視点での意見について、想定外の気づきが得られました。 ロードマップについては市の思惑のみで廃止できる施設ではないことから困難と考えますが、公園の一括管理については、可否や問題点、メリットなどの視点で関係部局と協議を行います。

No	事務 事業名	担当 課室	【点検結果】					【中間報告】		
			判定	一内訳一			参考	判定のポイント となった理由	反映の 方向性	担当職員の 得られた気づき
5	社会教育 振興事業	生涯学習 課 生涯学習 センター	もう 一歩！ (要改善)	0	8	0	もう 一歩！ (要改善)	目指すべきものが漠然としているので、現状をしっかりと把握し、目的を具体的かつ明確に設定して推進できるよう見直して欲しい。補助金は必要だと思うが、補助金も税金なので、お金は出すが口は出さないということにならないようにして欲しいという意見がありました。	即時 反映	PTA活動をマイナスに捉える意見もあるが、それ以上にその有用性について確認することができました。市教育委員会との共催で行う「親の学びと交流フォーラム」については、オンラインを含めた開催方法やSNSを活用した周知方法を改めて検討しなければならぬと感じました。
								【事業目的】 PTA活動の円滑な実施と活性化に向けて単位PTAと市原市PTA連絡協議会が連携をし、家庭・地域の教育力の向上を図ります。		
6	生涯学習 フェス ティバル 開催事業	生涯学習 課 生涯学習 センター	もう 一歩！ (要改善)	0	5	3	もう 一歩！ (要改善)	また、PTA活動については、意欲的に参加する方もいれば、後ろ向きな方もいる。参加することで、こういったメリットがあるかを伝えていくべき。本当のターゲットは、親の学びと交流フォーラムをはじめとするPTA活動に不参加の保護者であり、そこにアプローチするため工夫を重ねて欲しいという意見もありました。その他、親の学びと交流フォーラムは、夏休みや冬休み期間に実施した方がよいという意見もありました。以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となりました。	即時 反映	生涯学習は広い活動を対象とする概念であるが、担当として目指すべき姿をしっかりと持てることが重要であると感じました。また、生涯学習フェスティバルを開催することは、市民にとって有益であることが確認できましたが、実施内容や周知方法は改めて検討しなければならぬと感じました。
								【事業内容】 社会教育団体である市原市PTA連絡協議会の活動や行事に対して補助金を交付し、支援します。		
7	家庭教育 支援事業	生涯学習 課 生涯学習 センター	もう 一歩！ (要改善)	0	7	1	もう 一歩！ (要改善)	生涯学習とは何かという問いに対して常に向き合い、事業の目的を明確にして取り組んで欲しいという意見がありました。また、市民全体の参加を目指しているのであれば、若者向けの体験物を増やし、PRの仕方を工夫した方がよいという意見や、1日だけの開催ではなく、フェスティバルウィークとして長期間開催してもよいのではないかといた意見もありました。その他、今年度の実施に当たっては、新型コロナウイルス感染を防止するため、マニュアルを作成するなど、対策が必要だという意見もありました。以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となりました。	即時 反映	家庭教育支援事業の重要性を改めて確認することができました。学校で行う家庭教育は、教職員の負担につながる可能性があることを配慮しながら、今後も事業を継続していきたいと感じました。
								【事業目的】 賑わいのある空間を演出しながら、日頃の学習成果を発表できる場を提供することにより、楽しみながら学習意欲の向上及び生涯学習の啓発、学習者間の交流を図ります。		
								【事業内容】 学んだ成果を活かしたい、発表したいという方々のために、毎年2月下旬ごろ、youホール（勤労会館）で開催しており、「まちのせんせい」や関係団体などが講師を務める体験教室や、市民から公募した個人・団体による音楽発表などを催しています。また、いちほら市民大学特別講座を同時開催し、学習意欲の向上につなげていきます。		
								【事業内容】 子育て中の保護者などに対し、家庭教育に必要な知識等習得できる機会（家庭教育学級事業・子育て支援学習事業）や、各種相談先の情報提供（家庭教育リーフレット事業）をします。		

(3) 点検結果が「もう一步！（要改善）」、反映の方向性が「実行計画・次年度予算」となったもの（8事業）

No	事務 事業名	担当 課室	【点検結果】					【中間報告】		
			判定	一内訳一			参考	判定のポイント となった理由	反映の 方向性	担当職員の 得られた気付き
				ちょっと 待った！ (廃止・凍 結)	もう一 歩！ (要改善)	いい ね！ (継続)	コーデ ィネー ター 判定			
8	はり・ きゅう・ マッサー ジ等施設 利用費助 成事業	国民健康 保険課	もう 一歩！ (要改善)	2	6	0	ちょつと 待った！ (廃止・凍 結)	対象者が限定されており、利用者 数も年々減少しているので、事業 継続の意味が無くなってきている のではないかという意見がありま した。 また、健康保持、健康増進を進め るのであれば、科学的な根拠や データが必要ではないかといった 意見もありました。 その他、アンケート等により、事 業の効果を検証すべき。例えば、 利用者に対して必要不可欠な施術 なのか。施術所に対しては、どの 様な施術について利用されている かなどという意見もありました。 以上の理由から、判定は「もう一 歩！（要改善）」となりました。	実行計 画・次年 度予算	はり・きゅう・ マッサージの助成 の存在を知らない 方が大半であるこ とに驚き、事業周 知不足を感じまし た。対象者を非課 税世帯に限定し、 年々利用者数も減 少していることから 「事業目的を果 たせているのか。 もっと多くの高齢 者の健康に貢献で きる取り組みはな いのか。」と事業 を見直すべきでは ないかと感じまし た。今まで実施し てきたから続ける のではなく、市民 のニーズに応え、 効果の見える事業 を検討する必要が あると再認識しま した。
9	放射線モ ニタリン グ事業	環境管理 課	もう 一歩！ (要改善)	1	4	4	もう 一歩！ (要改 善)	有事の際の対応など、安心・安全 の継続性を担保して欲しいという 意見が多くありました。その上 で、測定回数の削減や、測定地点 の見直しを図ったら良いのでは という意見がありました。 また、市内にある県の施設や、隣 接する自治体でも計測しているの で、そういったところと情報発信 などで連携できると良いという意 見もありました。 その他、市への問合せ電話が0件 であれば、市民が興味を持ってい ない（不安が解消されている）と は言い切れないのでは。市役所へ 電話するのはハードルが高いの で、ウェブサイトのアクセス数も 指標になるのではといった意見も ありました。 以上の理由から、判定は「もう一 歩！（要改善）」となりました。	実行計 画・次年 度予算	問合せがなくても 不安が解消されて いるとは言いきれ ないとの意見を頂 きました。今後は 、その点も配慮 しながら慎重に事 業の見直しを図っ ていきたいと思い ます。

No	事務 事業名	担当 課室	【点検結果】					【中間報告】	
			判定	一内訳一			参考	判定のポイント となった理由	反映の 方向性
10	雇用安定 対策事業	商工業振 興課	(1)中小企業 退職金共済 掛金補助 もう 一歩！ (要改善)	1	8	0	もう 一歩！ (要改 善)	市内対象事業所が約6,000社あるの に対し、加入しているのが約500社 程度であるため、波及効果が少な いという意見がありました。 また、1年目だけの補助では、その 後の事業所の負担が大きく、加入 を続けることができなくなった場 合、離職につながりかねない。定 着率を上げるためには、別の補助 なども必要ではないかという意見 もありました。 以上の理由から、判定は「もう一 歩！（要改善）」となりました。 その他、「ちょっと待った！（廃 止・凍結）」と判定した点検員か らは、退職金で従業員を縛る時代 は終わった。未来のお金より、現 在の給料を上げて、財形年金など の自助努力ができることをアピ ールする時代になっているのでは とといった意見もありました。	実行計 画・次 年度予 算
			【事業目的】 中小企業の従業員の福利の増進と雇用 の安定及び中小企業に振興と発展を 目的にしています。 【事業内容】 単独では持つことが難しい退職金制度 の確立を支援するため、中小企業者が 退職金共済契約に基づき支払った掛金 の一部を補助するものです。	(2)認定職業 訓練運営費 補助 もう 一歩！ (要改善)	0	7	2	もう 一歩！ (要改 善)	
11	商店街街 路灯設置 等事業	商工業振 興課	もう 一歩！ (要改善)	2	5	2	いい ね！ (継続)	職業訓練校への支援自体は良いと 思うが、今の時代のニーズに合 った内容となるよう、学校側と相談 するなどして、課程の見直しが必要 ではないかという意見が多くあ りました。 また、現在では様々な研修を提供 する企業もあるので、そういった 企業を活用し、企業による研修を 受けるための補助金でも良いの ではといった意見もありました。 以上の理由から、判定は「もう一 歩！（要改善）」となりました。	実行計 画・次 年度予 算
			【事業目的】 商店街の適切な維持管理を促進し、 もって魅力ある商店街の形成及び市民 が安心して買い物ができる環境の整備 並びに照明LED化による省エネ化の 促進につなげます。 【事業内容】 商店街街路灯を管理する商店会等に対 して、街路灯の電気料や照明のLED 化、街路灯の設置や交換などに要する 経費の一部を補助するものです。	もう 一歩！ (要改善)	2	5	2	いい ね！ (継続)	

No	事務 事業名	担当 課室	【点検結果】					【中間報告】		
			判定	一内訳一			参考	判定のポイント となった理由	反映の 方向性	担当職員の 得られた気づき
				ちょっと 待った！ (廃止・凍 結)	もう一 歩！ (要改善)	いい ね！ (継続)	コーデ イナー 判定			
12	元気な商 業者支援 事業	商工業振 興課	もう 一歩！ (要改善)	1	7	0	もう 一歩！ (要改 善)	3社以上が連携してという点が新規 申請の妨げになっている。対象を 幅広くとらえ、新規の事業者が チャレンジできるように要件の緩 和を検討していけるとよい。助成 する内容によっては、上限額に差 をつけても良いのではないかと いう意見がありました。 また、事業周知の工夫が必要と いった意見や、新商品開発には情 報や人脈も必要であるため、異業 種の事業者が触れ合える機会を 作るのも良いのではといった意見 もありました。 以上の理由から、判定は「もう一 歩！（要改善）」となりました。 その他、「ちょっと待った！（廃 止・凍結）」と判定した点検員か らは、「ふるさと名物応援事業」 と統合して合理化したらよいとい う意見もありました。	実行計 画・次年 度予算	対象を幅広く、あ るいは上限額に差 をつけるといった 意見について、的 確な御指摘であ ると感じました。 ふるさと名物応援 事業との統合につ いては、事業実施 の背景が大きく異 なるため、点検員 への説明が十分で はなかったと感じ ています。
			【事業目的】 市内の事業者等が自発的に取り組む 「新たな商品の開発」や、「新しい サービスの創出」等により、地域産 業・地域経済の活性化を図ります。							
			【事業内容】 市原市内の3社以上の事業者が連携し て取り組む「個性的な商品の開発」 や、「新しいサービスの開発」の事業 を支援するため、事業に要する経費の 一部を補助するものです。							
13	魅力ある 観光地づ くり事業	観光振興 課	もう 一歩！ (要改善)	0	9	0	もう 一歩！ (要改 善)	最終的な目的は観光客の誘致だ が、目指しているのは、ボラン ティア団体の支援が本質だと思わ れるので、真の支援につながるた めの仕組みについて、再検討が必 要ではないかという意見がありま した。 また、ボランティアのモチベー ションをあげるための仕組み、例 えば、観光客の感動をボランティ アに伝えるようなシステムを考え てはどうかといった意見もありま した。 以上の理由から、判定は「もう一 歩！（要改善）」となりました。 その他、ボランティアが頑張っ ている姿をSNSなどで発信するのも市 や観光地のPRにつながるのではと いった意見もありました。	実行計 画・次年 度予算	事業内容につい て、市民に分かり やすく説明するこ との大切さ、難し さを痛感しまし た。 また、本補助金の 対象である、魅力 ある景観及び環境 を整備する団体の 活動状況につい て、対外的に発信 することで、本事 業の理解が得ら れ、活動されてい る皆様の励みとな ります。 今後、各団体の活 動内容や観光に資 する取り組みに関 する実情を把握に 努め、効果的な補 助となるよう検討 いたします。
			【事業目的】 市の意向だけでなく、地域の住民自ら が思い描く観光地づくり活動を支援す ることにより、整備後の維持管理につ いても、地域全体で自主的に行う意志 が生まれ、持続的な観光地の発展に繋 がるだけでなく、地域活性化を図るこ とも目的としています。							
			【事業内容】 観光客のために、計画的に市内全域の 観光地づくりに向けた整備を行う市内 活動団体に対し、植樹や看板・駐車場 等の整備に係る費用に係る費用の一部 を補助しています。							
14	地域資源 を活かし た観光振 興事業	観光振興 課	もう 一歩！ (要改善)	2	7	0	ちょっ と待 った！ (廃止・凍 結)	事業自体がまだ知られていないた め、SNSを活用したPRが必要。若者 はチラシを見てここに行こう！と いう人はとても少数なので、やは りSNSが有効であるといった、広報 に関する意見が多くありました。 また、事業目的があいまいで、小 湊鉄道を維持したいのか、観光客 を増やしたいのか、はっきりわか らないところがあるので、その辺 りを含めて見直しが必要ではない かという意見がありました。 以上の理由から、判定は「もう一 歩！（要改善）」となりました。 その他、コロナ禍の状況で観光振 興の難しさを感じた。予約制のバ スツアーにした方がよいのではと いった意見もありました。	実行計 画・次年 度予算	広域連携による観 光地づくりの取 組み自体は理解が 得られたものと認 識しております。 バスの運行以外に も、観光誘客につ ながる効果的な手 法について、近隣 自治体等と連携を 進めてまいりま す。
			【事業目的】 本市と君津市、大多喜町との広域連携 により、新たな観光ルート創出を目指 します。また、これにより小湊鉄道が 多くの利用者を獲得し、本市中南部 の市民の生活交通として不可欠である 同鉄道の維持・確保が図られること を目的とします。							
			【事業内容】 3市町にまたがるエリアを訪れる観 光客の2次交通として、これまで距 離的に近接していながら公共交通 による接続がない養老溪谷駅・久留 里駅間や鉄道の接続本数の少ない 養老溪谷駅・上総中野駅間におい て、周遊バスを運行する実証実験 を行います。11月上旬から12月 月上旬頃の土日祝日、計11日間 運行します。							

No	事務 事業名	担当 課室	【点検結果】					【中間報告】		
			判定	一内訳一			参考	判定のポイント となった理由	反映の 方向性	担当職員の 得られた気付き
				ちよつと 待った！ (廃止・凍 結)	もう一 歩！ (要改善)	いい ね！ (継続)	コーデ ィネー ター 判定			
15	農家レスト ラン支 援事業	農林業振 興課	もう 一歩！ (要改善)	3	6	0	ちよつと 待っ た！ (廃止・凍 結)	本質的な目的としては、市内の農産物について、地産地消やPRにつなげていくことにあるならば、その手段として農家レストランという形にこだわらず、ネット販売や、SNSなどで情報発信を行うことも有効ではないかという意見がありました。 また、補助金の対象を市内に限らず、市原産の農産物を使ってPRしてくれる飲食店であれば、市外、県外にも広げて良いのではという意見もありました。 以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となりました。 その他、農家レストランという名称だと、農家の方が営業しているレストランという印象が強いため、地産地消をアピールするならば、「地産地消レストラン」という名称にしても良いのではという意見もありました。	実行計 画・次年 度予算	地産地消の推進に関する事業について、地消に拘らず、市原市産農産物のブランド確立を基軸に事業を考えた場合には、補助対象を市内に限定せず、市外も対象とするメリットに気付かせていただきました。
			【事業目的】 農家レストランを地産地消、6次産業化の核の一つと捉え、農家レストランを運営する又は運営しようとする方に対し、持続的・安定的な経営を行うことを支援するものです。							
			【事業内容】 公募によって選ばれた対象事業者に対して、持続的・安定的な経営に要する経費の一部を対象として、主に地産地消のメニュー開発に要する経費を100万円を限度として支援しています。							

(4) 点検結果が「いいね！（継続）」となったもの（1事業）

No	事務 事業名	担当 課室	【点検結果】					【中間報告】		
			判定	一内訳一			参考	判定のポイント となった理由	反映の 方向性	担当職員の 得られた気付き
				ちよつと 待った！ （廃止・凍 結）	もう一 歩！ （要改善）	いい ね！ （継続）	コーデ ィネー ター 判定			
16	市原市ボ ランティ アセン ター補助 事業	地域連携 推進課 地域連携 推進室	いいね！ （継続）	0	4	4	いい ね！ （継続）	ボランティアの裾野を更に広げる工夫が必要。現状の事業費は、専従職員の人件費が8割を占めており、裾野拡大のための取組を充実させるため、活動経費を増額してもよいのではといった意見がありました。 また、登録している趣味のサークル活動団体の中には、福祉施設への訪問を行うなど、社会貢献意識が高い方々もいることが推測されます。他分野の活動を知る事で、地域福祉活動を行うボランティアに興味を持つ方も増えると思われるので、団体間同士をつないだり、個人ボランティアに団体を紹介するなど、コーディネート機能の充実が図られていくことを期待したいという意見もありました。 その他、市と社会福祉協議会のボランティアセンターが今後も連携を密にし、事業の在り方について改善を行って欲しいといった意見もありました。 以上の理由から、判定は、「いいね！（継続）」となりました。	—	ボランティアは地域福祉を支える重要な担い手であり、その中間支援組織であるボランティアセンターと、引き続き連携を密にし、事業の在り方等について改善を図っていきます。 ボランティアの裾野拡大については、市としても、まちづくりサポート事業にて、WEBサイトによる市民活動団体の情報発信、市民活動団体への補助金の交付等で推進していきます。 団体同士のつながりや個人ボランティアへのコーディネート機能についても、ボランティアセンターと市がそれぞれの専門性や強みを生かして充実を図っていきます。